

住民への  
アピール

# 「ごみの本格的削減（半減）をめざそう」

## 荒神山周辺は自然・信仰・観光の地、軟弱地盤 計画の見直しを

土砂災害ハザードマップ

清崎町西清崎地区ハザードマップ 拡大図

里町の一部を含む

荒神山

凡例

- 土砂災害特別警戒区域
- 土砂災害警戒区域
- 土石流危険渓流
- 急傾斜地崩壊危険箇所

▲彦根市発行の「ハザードマップ」より（一部補筆）、獅山氏の説明＝荒神山の東斜面と西側斜面に囲まれた土地が候補地とされている危険を指摘。

打り出した際、今まで以上  
県が広域化をめざす方針を  
考えていきたい、と提起。  
あり方」をみなさんと共に  
から、ゴミと住民・行政の  
7年の「ごみ処理広域化」  
の当初からかわった経過  
▽西澤伸明議員は、200  
考えていきたい」と表明。

長・前広域組合議会議員）  
は、候補地は彦根市当局が  
土石流危険渓流に指定され  
た地域を含んでいる。危険  
力所の立地は最初から避け  
るべき。ボーリング調査の  
結果は軟弱地盤が約40m  
（50mの深さと見られ  
る。地盤改良には膨大な費

パネラーの主な報告  
▽角井英明議員は、広域  
で取り組むことに疑問を抱  
いた。何でも燃やす、いつ  
ぱい燃やす、この発想を転  
換する必要がある。地球温  
暖化、異常気象の原因でも  
あり、人々の生活を脅かし  
ている。今後もゴミ問題を  
考えていきたい」と表明。

に住民に説明の必要性」を  
説いていながら、真逆のや  
り方が事態を困難にしてい  
る、と批判。その上で20  
0億円もの大型施設は住民  
の膨大な税金負担となると  
指摘し、根本的に見直すべ  
き、と訴えました。  
▽獅山向洋さん 元彦根市

去る7月18日、荒神山を守る会「結成の集い」が荒神山近くのグリーンピア彦根で開催。100人を超える参加があり、新ごみ処理施設の問題点、廃プラ焼却問題、ゴミ減量化などの課題について、パネラーの報告、参加者の発言など有意義な集いとなりました。  
荒神山を守る会」の結成を確認。活動方針、役員が決定され、住民へのアピールが採択されました。

### 確認された「会」の目的

- ①荒神山の自然と歴史・文化遺産を守る。
- ②荒神山麓への新ごみ処理施設の見直しを求める。
- ③抜本的なゴミ減量（半減）について話し合いを提言する。

（裏面に続く）

用がかかると思われる『コストが一番安い』という選定理由と矛盾するのでは」と西清崎地先の撤回を訴えた。  
▽畑明郎さん 元日本環境学会会長）は、プラスチックの発生・製造を抑制することが何より重要。プラごみを燃やして「熱回収」するサーマルリサイクルは「リサイクル」ではない。

をどうぞ。 ☆くらし・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123  
します。メール shigakoura.jcp@ares.eonet.ne.jp ホームページもごらんください【「西澤伸明」で検索】

「熱回収」施設は発熱量の高い廃プラスチックが大量に必要となり、プラスチック削減を目指している世界的な流れに逆行する」と警告。候補地は危険な所であり、軟弱地盤の問題点などパワーポイントを使って解説。

### 《住民へのアピール》

荒神山麓でのごみ処理施設建設計画を見直し、みんなで、ごみの抜本的な減量をめざしましょう

彦根・愛知・犬上の住民のみなさん。  
私たちは、昨年、自然と文化・歴史遺産が豊かな荒神山

「じんぶん赤旗」7月21日より



また「無観客」と言いつつ、開会式ではIOC(国際オリ

## 「命より利権」祭典

城南信用金庫  
名誉顧問

吉原 毅さん

東京五輪は、東日本大震災からの復興を世界に発信するといつうたい文句で当時の安倍政権が誘致しました。実際には東京電力福島第一原発事故という「負の遺産」には触れず、国立競技場の建て替えなど施設整備ばかりに巨額の予算を投入しました。

国内外指摘

## 今だからこそ 五輪 中止を

インピック委員会)幹部、世界の五輪関係者、放送権者を「特別枠」にするなど、五輪「特権」が目に見えます。ゼネコンと五輪ビジネスのための祭典ではないかという指摘が国内外からあがっています。  
新型コロナウイルス感染症が急拡大するなか飲食店や国民は自粛を強要されるのに、五輪だけは開催されます。菅義偉政権は酒類提供禁止をめぐって、金融機関や酒販売卸業界から飲食店に圧力をかけさ

せようとなりました。  
企業、商店にとって金融機関からの融資は命綱です。融資を政府が一方的にコントロールできる法的根拠はありません。融資を中止し、立ち行かなくなったら死活問題です。誰が責任を取るのか。  
怒りが爆発  
菅政権はそれを承知でやろうとしましたが、わずかな時間で撤回に追い込まれました。都議選の敗北もあり、迫る総選挙を前に爆発的な国民の怒りを無視できなかったのです。  
菅首相は「これまでして東京五輪を強行開催するのはなぜか」と国会で問われても、「安全安心の大会に努める」としか答えない。「国民の命より、五輪利権のため」と私たち国民には思えてなりません。東京五輪は今からでも中止すべきです。  
(聞き手・山本真直)

の麓に、広域ごみ処理施設を建設する計画があることを知りました。この計画には、いつの間にか「荒神山トンネル」が追加されていました。

これを知った人たちが、この計画への思いを語り合ってきました。自然をこわさないで「荒神山の麓には持つてきて欲しくない」「ゴミ処理場から出てくる物質は何か」子どもたちへの影響が心配だ「相当のお金がかかる」「みんなが知らないままの建設はおかしい」「私は荒神山を愛している」と。  
周辺地域ではもう決

まったことだ」との風評が流れています。しかし、これはあくまで計画であり、これから環境影響調査を経て、令和5年に正式に決まるのが分かりました。

私たちは、このまま黙ってみているわけにはいかなないと「荒神山を守る会」をつくることを決め、チラシをつくり賛同者を募ってきました。今、荒神山を愛する400人以上の方が賛同しています。  
これまでの話し合いでも、今日の総会・シンポジウム、計画決定の経過の不透明さ、軟弱地盤、浸水想定区域・土砂災害警戒区域の指定、大きな財政負担、プラスチック問題など沢山

の問題が浮き彫りになりました。

「一番大きな問題は、大型ごみ処理施設の建設が時代のながれに逆行していることです。政府が2050年カーボンニュートラル(実質ゼロ)の目標を示し、この6月には「プラスチック資源循環促進法」が成立しました。国のごみ政策が180度転換しているときに、二酸化炭素が大量に発生する大型ごみ処理施設の建設は大きな禍根を残すでしょう。大事なことは、住民と行政と企業が一緒になって、ごみを減らし分別し回収し、豊かな自然を残して次代に引き継ぐことではないでしょうか。

いったん立てられた計画が見直されることは、今回、彦根市の和田新市長が「荒神山トンネルを含む市道計画」を撤回したことで証明されました。それはまた、住民の声で行政が変わることを意味しています。  
みなさん、今からでも遅くはありません。私たち住民が声を上げましょう。  
荒神山の自然と歴史・文化遺産を守りましょう。  
荒神山麓でのごみ処理施設建設計画の見直しを求めましょう。

抜本的なごみ減量(ごみ半減)について話し合い実行しましょう。